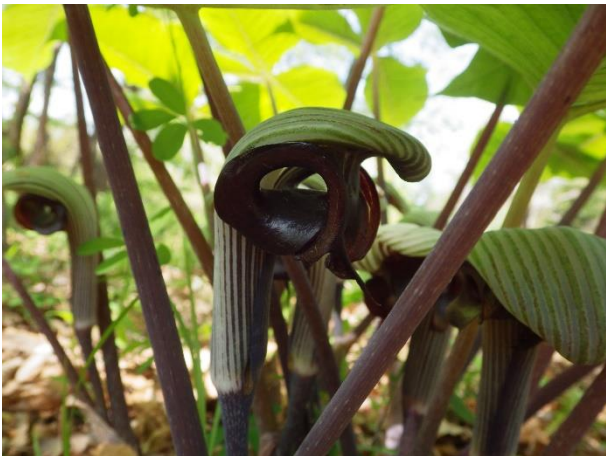


植物多様性センターの「ムサシアブミの実」

武蔵野ゾーンの雑木林の園路脇に、ムサシアブミの実が見ごろです。サトイモ科テンナンショウ属の植物は、性転換をすることで有名です。地下の塊茎が大きくなると開花するのですが、最初は雄株として雄花だけをつけ、十分に大きくなると雌株になり雌花だけをつけます。赤い実をつけている株は今年には雌株でしたが、来年は塊茎が小さくなり雄株に戻る予定です。本当かどうか、引き続き観察してみてくださいね。



4月中旬:コブラのような仏炎苞の中に雌花がびっしりとつく



5月中旬:萎れた仏炎苞から、膨らみ始めた緑色の果実が覗く



7月:緑色の果序の先端は、花序の上につく枯れた付属体



12月:たくさんの果実をつけた雌株は翌年は雄株に性転換?